

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172900805), 法人名 (北海道医療株式会社), 事業所名 (グループホームハッピーヴィラしんまち), 所在地 (北海道旭川市6条西1丁目1番2号), 自己評価作成日 (令和元年9月17日), 評価結果市町村受理日 (令和元年12月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日々入居者様が心から笑って、楽しんで心身共に健康で朗らかに過ごせられる様、毎日の会話の中にも笑いを主とした話を取り入れ、歌声喫茶に似たような催しを2か月に一度行い、地域やご家族様にも呼びかけ取り組んでおります。
・他、趣味や特技、出来る事を活かし、意識と意欲現状維持から毎日の生活に活気とメリハリ、充実感を味わって頂ける様な生活支援を考慮しながら実践しております。
・地域との交流におきましては、歌声喫茶に似たような歌声会や演奏者を招いての演奏会、仮装ハロウィンパーティー等、楽しみましょう！を基にした催しの開催や、生活に役立つ講習会を開催し、交流を図りながら地域との共存、共有がなされる様、取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0172900805-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年11月1日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) ホームの環境と介護設備等の機能性; 都市の住宅ビル街にあって、2階建ての1ユニットホームは閑静な中に、介護設備機能も効果的で利便性も整えている。
2) 職員の姿勢・態度; 個々の心身の状況に応じて、丁寧に温かな支援と明るい雰囲気や楽しい環境づくりに努めている。
3) 家族の職員の介護等への好感度; 症状の重さに関係なく、皆に丁寧に明るく、適切な介護支援に高い信頼と安心を示している。
4) 運営推進会議開催状況; 会議は定例に開催し、運営資料等を開示して参加者の意見・意向を運営への反映に努めている。
5) 地域組織・機関等との連携; 地域組織の連携に留意して、利用者の生活支援を共にする環境づくりの協力を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の尊厳、尊重を基に各入居者様にとってどのような尊重が相応しいのか？を考慮しながら実践している。	職員は「個別性の尊重、自尊心を傷つけない対応に努め、明るく、楽しい生活を支援し、精神の安定を図る」をモットーに、その実現に真摯に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根ざしたグループホームを念頭に置き、催し等の呼びかけをし、交流が図って行ける様、取り組んでいる。	地域の協力を得て、散歩時には挨拶を交わし、行事や催事等には呼びかけ、地域の一員としての交わりを大切にしよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方への接し方や今迄、実際にあった事例を交えながら即座の対応に繋げられる様、現状報告と共に知らせている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記同様、現状報告や災害時計画の内容等を話し、そして実践した結果を報告し、意見を頂き、次回の訓練内容等に取り入れ活かしている。	会議は定例に開催し、民生委員、地域関係者、家族、包括支援センター等の参加を得て、運営状況(利用者・職員・行事・事故・防災等)を説明して、参会者の意見等の反映に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務改善改革等の内容や事業所の事情を伝え相談し、意見を頂きながら、連携、協力関係を築いている。	年1回の関係事業者が一堂に会して行政側との会議の場があり、行政方針や運営の指針を得ると共に、定例の業務報告に際しての情報交換・連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基準を説明した上での現状、状況を話し、市にも報告した上での安全を考慮した施錠となる様、そして拘束とならぬよう、常に話し合いながら、取り組んでいる。	拘束委員会等での課題や留意事項を職員相互で確認する他、カンファレンス会議等でも担当者の観察意見等を活かして、利用者の尊厳を損ねない介護に専念している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	系列の勉強会や内部勉強会等を行い、現状の入居者様のへの対応が拘束的になってないか？ご家族様にも御相談をしながら、対応、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会に勉強会依頼をし、定期的に勉強会を行い、新しい入居者様の受け入れ体制や現入居者様がいざという時に、利用することがある場合に備えて勉強中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様の身体状況が変わった場合の先々の生活の拠点について、ご説明を行い、不安が伴わない様、納得、ご理解して頂ける様、契約時ではなくても常づね状況を含めながらはなしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常々面会時や、お手紙等で各職員が入居者様の状況を伝え、そして要望やご意見を伺いながら、ケアプランや日頃の対応に反映出来る様、取り組んでいる。	家族の訪問頻度は利用者家族で異なるが、概ね頻度も高く、その機会を意見反映に活かすとともに、丁寧な連絡を通じて要望等を活かし、信頼関係を高めるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について具体的な提案を伺う機会は設けてないが、事業所内で話あった事柄を伝える様にしている。	日常の定例会議での協議と共に、人事考課に関わる自己表現や意向を伝える機会があり、個々の実情を活かし、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握が何処までなされているかはわからないが、状況や実績、努力をした結果をふまえての表彰を受けた。他、系列内での勉強会を定期的に行い、向上心が維持、持てるよう整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や内部の講師を招いての講演会や勉強会を開催し、知識と力量が備わる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記同様、外部、内部の交流会を交えた勉強会を開催し、互いの取り組みを把握し、日頃の対応に活かされる様、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が出来る事や、ご家族様にも今迄の様子を伺いながら、要望を伺い、取り入れ充実した生活が送れる様、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、今迄の生活状況や習慣を伺い、維持出来る様、又、困っている事等も伺いながら、互いに入居者様を支えて行ける関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様、ご本人様の生活状況や習慣、出来ることや出来なくなったことを伺い、サービスの在り方を考慮しながら取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴れなれ敷くならぬ様、一定の距離感を保ち、同じ空間で、一時を過ごして行ける家族に近い存在になれる様な関係性作りを努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の今迄の生活状況を伺い把握した上での関係性の在り方について、考慮しながら培ってきた絆、関係が活かされる様、配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に一度の同期会への送迎等を行い、途切れない様、何時までも続けて行けてご本人様が楽しんで頂ける様、配慮している。	利用者の中には定例の同期会に誘われる方もあり、家族の訪問時の協力等と共に、自由で楽しい機会となるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士等や各入居者様の性格を把握し、皆、居心地よく過ごせられる様、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や電話等で話をしたり、ご相談に応じて繋がったご縁を保って行ける様、努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活状況を見ながら、自ら言われなくても意向が把握出来る様、様子をみながら対応している。	個々の入所以来のアセスメント記録の見直し等を職員相互で周知に努めるなど、担当制を基に、個々の思いや意向を日常の行動等を通じ把握して、意向の反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様に伺いながら、自宅に居た時と近い生活、習慣、特技、を活かし、サービスに繋げて行ける様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各、入居者様の生活ペースや心身状況をみながら、休みませんか？等、声掛けし、無理なく日常の活動が出来る様、配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様やご本人様にこれからどのように生活をして行きたいか？を伺い、話し合いながら、現状に相応しい生活支援ができる様、考慮しながら作成している。	個々の利用者の介護担当制を基として、基本的に担当者のモニタリングの過程的判断を基に、専門職位者とともに介護計画を作成し、家族の意向を加えて作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常時、申し送り時や記録に様子を記入、話し合いを行い、情報を用いながら対応し、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に合わせた対応、サービス支援が行える様、常々話し合いながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア図書等、利用し、ご本人様の趣味が続けて行ける様、そして連携して行ける様、取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の医療機関を伺い、なければ常時対応可能な系列の医療機関を利用し、即座の対応に備えられる様にしている。	基本的には個々のかかりつけ医を尊重する支援を行っている。日常は月1回の協力医院の往診、週1回の訪問看護を得て、心身の変化とを観察し記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護師に日頃の様子を伝え、相談をしながら、適切な処置が受けられる様、取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本情報から日頃のご本人様の様子を伝え、ご家族様のご要望もお伝えしながら、ご本人様、担当医や相談員と話しあいながら退院に向けて取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の在り方については、医療処置も伴うことから、事業所での対応についての説明をご家族様に行い、ご理解して頂ける様、又、関係機関とも連携を図って行ける様、取り組んでいる。	入所契約に重度化や終末期の指針に基づき、家族の理解を得ている。看取りは行っていないが、変化に応じて適切な対応を協議し、協力医療機関等との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、定期的に勉強会を行い、マニュアルの見直しも含めた訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の計画書を運営推進会議で話し合い、ご意見を頂き交えながら作成し、又、定期的に訓練や座学を行っている。	災害対策は運営推進会事項として参会者の意向とを伺い、職員組織の分担等と共に本部の協力を得て実施している。備蓄等も本部との関係の下に備蓄に努めている。	本部の連携と共に、暖房器具等、ホーム自体の日常の備蓄要素について、さらなるご検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の個性を把握しながら、馴れなれ敷くならぬ様、現状に即した言葉かけ、対応をしている。	事業理念の確認と共に、利用者の日常での活動状況、心身の変化を把握して、個々の尊厳・人格を損なうことのないよう支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誘導質問からの自己決定になるが、押しつけにならぬ様な決定がなされる様、思いや希望が表せられる様、配慮しながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場合により、職員側の都合に成り得ている時もなく、なきにしろあらずであるが、出来る限り、皆様の生活ペースが保てる様、ご要望に添える様な支援を目指し、取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各入居者様らしい身だしなみがなされる様、促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲ取りや、シイタケのじくさき、ゴマすりや食後のお膳拭きや食器洗い等、自宅に居た時と近い家事活動を一緒に行っている。	個々の嗜好や心身の状態を把握し、美味しく楽しい食事の提供に努めている。基本メニューは本部の管理栄養士に依る。また、個々の状態に応じた調理の手伝いや後片付けを楽しむよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を把握し、水分や栄養が補える様、適度に摂る様、促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し、自らも行える習慣が身につくよう、又、衛生保持が保てる様、促している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間おきにトイレ誘導を行い、適度な排泄パターンが掴めるよう、そして自力で排泄行為がなされる様、対応している。	排泄の自立支援を基に、個々の排泄記録等、生活状況を踏まえて支援に努めている。用いる下着用具等も家族の協力を得て、適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が改善される様、腹部マッサージや運動を促して予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の状況により、職員側の都合に成り得る時もあるが、出来る限り、要望に添うように入浴される様、行っている。	利用者の多くは入浴が楽しみの一つで、個々の心身の状態を確認して、要望に応じて楽しい入浴等の支援となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子をみながら、食後、休みましょうと促し、心地よく休息がなされる様、場や状況に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おんど版や薬の効能表をみながら、用法、効能等について把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や出来る事、趣味を活かし、気分転換と充実感を感じて頂ける様、1人1人にあった活動の促しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度の同期会への送迎や、散歩等を含めたお出掛けをし、地域の方々にお会いした時には挨拶を交わし、地域にグループホームがある事を把握して頂ける様、又、交流が図って行ける様、取り組んでいる。	ホームでの生活にあって、四季を通じた変化を感じ、屋外の開放感等を味わえるよう、外出支援に努めている。近隣の方が声をかけて下さるなど、地域交流の機会としている。また、利用者の中に同期会仲間の集いがあり、職員は個々の状態に応じた支援にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己である程度の金銭を管理し、自己の責任力の意識が継続して行ける様、配慮しながら対応している。(具体的には入浴時、お財布お預かりしますよ、安心して下さい)等の声掛けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	請求書投函時のお手紙や、遠方のご家族様への電話等、配慮し、直接、お話しし、互いに安心感と絆が維持出来る様、行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や茶の間、廊下に観葉植物を置き、景観良くし、温度は過ごしやすい温度が保てつよう、他、季節によって館内の飾り等で季節感をだし、気分良く過ごせられる様にしている。	ホームはかねて企業の職員寮だった建物を改装して、その特徴ある共用空間の風情を活かしている。1階の居間を中心に温かな陽ざし、温・湿度の管理等に留意し、皆で世話する観葉植物等の配置、季節や行事等の飾り付けなど、居心地良い場づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間に椅子を配置し、1人で座りながらゆったりと休めて過ごせられる様、又、仲の良い人同士で過ごせられる様、空間のコーディネートをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を配置し、自宅に居た時と近い空間作りを行い、好みの物はご家族様と相談をし、ご本人様が居心地良く、過ごせられる様、取り組んでいる。	各居室は清潔に整えられ、家族とともに利用者の好みや思い出・馴染みの備品等を整え、利用者本人の居心地環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の出来る事等を把握し、出来る事は継続して行って行ける様、わかることは分かっても危険性が及ばぬ様、安全に努めた取り組みをしている。		